

科目名	マクロ経済学基礎		
授業形態	講義	学年	1
開講時期	2023年度 前期	単位数	2
担当教員	木谷 耕平		
内容および計画	<p>マクロ経済学では、経済全体に関わる現象を研究する。この授業では、成長する国とそうでない国があるのはなぜか、失業が発生するのはなぜか、物価水準がどう決まるのかといったテーマについて考察する。ミクロ経済学と同様、マクロ経済学も現代経済学を中心とする分野である。現実の経済を理解する上で、その知識は欠かせない。この授業では、講義と問題演習を通して、マクロ経済学の基礎を習得する。</p> <p>なお、経済学を学ぶためにはある程度の数学的知識が必要となるが、この授業では必要な知識は適宜解説する。履修において、四則演算より高度な数学の知識は必要ない。</p> <p>キーワード：経済成長、GDP、インフレ、失業、為替相場</p>		
1	<p>イントロダクション：マクロ経済学とは何か</p> <p>この回では、現代経済学の全体像とその中でのマクロ経済学の位置づけについて学ぶ。</p>		
2	<p>経済学者らしく考える：経済学の方法論</p> <p>他の学問と同じく、経済学にも独特の用語や考え方がある。この回では、経済学が現実社会に対してどのようにアプローチするのかを学ぶ。</p>		
3	<p>市場における需要と供給の作用</p> <p>この回では、需要と供給のモデルについて学び、売り手と買い手がどのように行動し、互いにどう影響し合うのかを考察する。需要と供給のモデルは、この授業の土台となる重要なトピックである。</p>		
4	<p>マクロ経済学のデータ（1）国民所得の測定</p> <p>経済全体の状態はすべての人々に影響を与えるため、マクロ経済に関する統計はニュースや新聞で大きく取り上げられる。そうした経済統計で、最も頻繁に目にするものの一つがGDPである。この回では、GDPの意味や算出方法、問題点について学ぶ。</p>		
5	<p>マクロ経済学のデータ（2）生計費の測定</p> <p>GDPは、経済が生産している財・サービスの量を測定する。この回では、経済の総合的な生計費の尺度としての消費者物価指数（CPI）について学ぶ。</p>		
6	<p>長期の実物経済（1）生産と成長</p> <p>日本やアメリカと、ニカラグアやバングラデシュとでは、生活水準に大きな違いがある。この回では、こうした生活水準の違いが何によって説明できるのかを学ぶ。</p>		
7	<p>長期の実物経済（2）貯蓄と投資</p> <p>貯蓄と投資は長期的な経済成長の重要な要素である。貯蓄が増えればより多くの資源が投資に回り、投資によって資本が増えれば経済が成長する。この回では、貯蓄と投資を結び付ける上で、金融システムが果たす役割を学ぶ。</p>		
8	<p>長期の実物経済（3）貸付資金市場</p> <p>金融システムを構成する様々な制度は、経済において貯蓄と資本を調整する役割を担っている。この回では、政府の政策や様々な出来事が、金融市場にどのような影響を与えるのかを学ぶ。</p>		
9	<p>長期の実物経済（4）失業</p> <p>職を失うことは、生活水準を下げ、将来への不安を高める。この回では、失業の測り方や失業が発生する理由、失業に対する政策について学ぶ。</p>		
10	<p>長期における貨幣と価格（1）貨幣システム</p> <p>私たちは取引において貨幣を使う。貨幣があることで容易に取引をすることができる。この回では、経済における貨幣の役割や貨幣の様々な形態、銀行システムを通じた貨幣の創造について学ぶ。</p>		
11	<p>長期における貨幣と価格（2）貨幣量の成長とインフレーション</p> <p>モノの価格を50年前と比べると、大きく違っていることに気づく。例えば1973年に新聞の1か月の購読料は約1000円であったが、今日では約4000円になっている。こうした物価の上昇はなぜ起るのだろうか。この回では、物価水準の決定とその変動に関する理論として、貨幣数量説について学ぶ。</p>		
12	<p>開放経済のマクロ経済学（1）基本的概念</p> <p>日本は世界の様々な国々と貿易をしている。国際貿易をすることで、すべての国の生活水準が上昇する。この回では、他国と貿易をする「開放経済」を詳しく考察するために必要な、基礎的概念を学ぶ。</p>		
13	<p>開放経済のマクロ経済学（2）為替レートの決定</p> <p>ニュースや新聞では、1ドル150円のように為替相場の数字を目にする機会が多い。こうした数字は何を表わしているのだろうか。また、それはどのように決まるのだろうか。この回では、為替相場について考察</p>		

	する。名目為替相場と実質為替相場の違いや、購買力平価説について学ぶ。
14	開放経済のマクロ経済学（3）開放経済のマクロ経済理論 この回では、前回学んだ純輸出や純資本流出、実質為替相場などのマクロ経済変数がどのような要因によって決まるのかを学ぶ。また、政策や様々な出来事がどのように貿易収支や為替相場に影響するのかを考察する。
15	授業のまとめ この回では、この授業で学んだ内容を、練習問題を通じて改めて確認する。

教科書

タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
『マンキュー経済学II マクロ編（第4版）』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	9784492315200	2019

参考書	井堀利宏 『入門マクロ経済学 第4版』 新世社
-----	-------------------------

成績評価

評価方法	割合(%)
期末試験	70
小テスト	30

- ・小テストは数回実施する。詳細は最初の授業で説明する。
- ・期末試験及び小テストは持ち込み不可。

学習到達目標	以下の3点をこの授業の到達目標とする。 ①マクロ経済学の用語や考え方を理解し、説明できる。 ②マクロ経済学の考え方を現実社会の問題に応用し、分析できる。 ③新聞記事やニュースの内容を理解し、批評することができる。
先修条件	
実務経験	実務経験あり：日本の政府系機関にて、発展途上国のマクロ経済及び債務持続性の分析に従事した。こうした経験から得た知見も踏まえて授業を行う。
その他	私語など、授業と関係のない行為は慎むこと。